

結果継続表現の日中対照研究

—「他動詞の受身＋テイル」と中国語の存在文、受身文—

飯嶋 美知子

キーワード

意図性の有無・客観的描写・「存在文」・「意味上の受動文」・「被構文」

0. はじめに

「窓が開けられている。」のように、「他動詞の受身＋テイル」（以下、「他レテイル」）の形式で結果の継続¹⁾を表すことがある。結果の継続を表す形式としては、「自動詞＋テイル」（以下、「自テイル」）、「他動詞＋テアル」（以下、「他テアル」）が日本語の初級教科書における学習事項となっているが、「他レテイル」を取り上げているものは少ない。

中国語を母語とする日本語学習者にとって、動詞のテイル形の用法の中で、「結婚している。」のような、結果の継続の用法の習得が特に困難であるという²⁾。「他レテイル」は受身の形式とテイル形が組み合わさっているため、習得はさらに困難であると考えられる。

また、テイル形や受身文に関する日中対照研究は少なくないが、「他レテイル」に関するものは多くない。

本稿では、「他レテイル」「自テイル」「他テアル」の相違を明らかにした上で、「他レテイル」に対応する中国語の表現について研究する。その結果を踏まえ、中国語母語話者を対象に「他レテイル」の使用状況に関する調査を実施し、学習上の問題点について考察する。

1. 結果の継続を表す「他動詞の受身＋テイル」

1-1. 「自動詞＋テイル」「他動詞＋テアル」「他動詞の受身＋テイル」の相違

結果の継続を表す「自テイル」「他テアル」「他レテイル」の相違³⁾については、寺村(1984: 148)が詳しい。

その眼前の状態が、何らかの外部からの力、作用によってもたらされたものであると捉えた場合は、～ラレテイルか～テアルになる。そうでない場合、つまり自然にそのようにあると捉えられた場合は、自動詞の～テイルになる。次に、はじめの場合の

うち、その「外部からの力、作用」が、人が意図をもってした作為であると捉えられた場合は「他テアル」に、そうでない場合（つまり自然の力か、人の動作でも非意図的な動作による場合）、「他レテイル」になる。

ここで、「外部からの力、作用によってもたらされた結果」という点で共通する、「他レテイル」と「他テアル」の相違についてさらに検討する。野村（1969）は、(1) (2) の例を挙げて、「他テアル」には2つの用法があり、1つは(1)の「他レテイル」に、もう1つは(2)の「他動詞+テオク」（以下「他テオク」）、あるいは「他動詞+テオイタ」に置き換えても意味に大差がないものであるという。

- (1) その書物の上には、色鉛筆の赤い線が、何本も行の下に引いてあった。

（野村 1969: 680）

- (2) 小屋の事は一切 K さんに任せてある。（野村 1969: 680）

寺村（1984）も、「他テアル」には2つの用法があることを以下の例を挙げて指摘している。

- (3) 壁に絵がかけてある。（寺村 1984: 147）

- (4) 先方にはもうそのことを話してあります。（寺村 1984: 147）

(3) は「かけられている」と置き換えられるが、(4) は置き換えることはできない。寺村（1984）は、(3) を「眼前の状態を客観的に描く」用法、(4) を「処置が自分自身の行為、または自分の差配による誰かの行為であり、主としてあることに対する準備という意図でなされるもの」を示す用法であるとしている。「意図性」がある場合は「他テアル」が用いられ、「他レテイル」を用いることはできないというのである。

一方、「意図性」のない行為については、「他レテイル」のみが用いられ、「他テアル」は用いられないことを、工藤（1991）も以下の例を挙げて指摘している。

- (5) 道路に面した操作場の境界の棒杭に有刺鉄線が張ってあるが、その1カ所だけ鉄線が切られている。だが、これは前から子供などが出入りしていて、いつか切断されたもので、いわば、いたずらものの侵入口になっていた。（工藤 1991: 32）

- (6) 川筋が変わって行く手が閉ざされているのである。（工藤 1991: 32）

(5) は文脈から子供によって切られたらしいことが推測されるが、それは切ろうという意図があったわけではない。それで、「切ってある」とすると、不自然になる。(6) は、自然の力による結果であり、当然「意図性」はないので、「他テアル」は使えない。

このように、「他レテイル」と「他テアル」は「意図性」の有無によって使い分けられている。なお、「他レテイル」「自テイル」「他テアル」の相違について、寺村（1984）はさらに(7) (8) の例を挙げ、主語が人か物かによって使用できる表現に相違が生じることを指摘している。

- (7) 宝くじの売場にたくさんの人が 並んでいる／*並べてある／*並べられている ⁵⁾。

（寺村 1984: 149）

- (8) 店先にきれいな干しいかが 並んでいる／並べてある／並べられている ⁶⁾。

（寺村 1984: 149）

寺村（1984）は、物が主語である(8)はいずれの場合も成立するが、人が主語である(7)は、他者からの命令を受けての行動のような特殊な状況を除けば、「並んでいる」以外は成立しにくいと述べている⁶⁾。主語が人の場合には、自主的な行為と考えるのが普通

であり、他者の意図によって強制的にそうになっている、あるいは外的な要因によってそうになっている、と解するのは不自然だからである、というのである。

また、金水ほか(2000)は、「視点者にとって否定的な意味かどうか」によって「他レテイル」「自テイル」「他テアル」が使い分けられることを、(9)の例を挙げて指摘している。

(9) あ、鍵が 壊れている。／*壊してある。／壊されている。(金水ほか2000:45)

「視点者」とは主として「話し手」であり、「否定的な意味」とは、視点者自身にとって不利益であったり、不快を感じたりする意味、あるいは、他者の被害に同情を感じ、遺憾であると思うという意味である。

金水ほか(2000)は、(9)の場合は、意図性を示す表現である「他テアル」は使用できないという。鍵を忘れたので、部屋に入るために、やむを得ず壊すなど、特殊な状況を除いて、わざわざ意図的に否定的なことをすることは通常考えられないからである⁷⁾。

以上、「他レテイル」「自テイル」「他テアル」の相違について、寺村(1984)説に、金水ほか(2000)のいう「視点者にとって否定的な意味か否か」を加えてまとめると、【表1】のようになる。

【表1】「自テイル」「他テアル」「他レテイル」の相違

形式	意味	眼前の状態の捉え方	意図性	人を主語とする	否定的意味を表す
自テイル		自然に眼前の状態のようにになっている。	—	可	可
他テアル		眼前の状態が外部からの作用によってもたらされた。	あり	不可*	不可*
他レテイル		眼前の状態が外部からの作用によってもたらされた。	なし	不可*	可

*特殊な状況では「可」となる。

「他レテイル」の用法を、寺村(1984)のいう「他テアル」と置き換えてもほぼ意味が同じである「眼前の状態の客観的描写」、意図性のない「人の非意図の結果及び外的作用による結果」⁸⁾、金水ほか(2000)のいう「視点者にとって否定的な意味」の3つに分類する⁹⁾。この3用法について、第2、第3章で中国語との対応関係を検討する。

1-2. 「他動詞の受身+テイル」による客観的な描写

「他レテイル」と中国語との対応関係を見る前に、「他レテイル」によって表される「客観性」について考察する。

田中(1963)は、「他レテイル」を含む受身表現は、説明文の客観的な態度を特色づける、もっとも重要な表現であると指摘している。説明文に使われている受身表現について、「他テアル」を用いたり、能動文にするなどして、受身以外の表現を用いると、原文のニュアンスがかわって、主観的な断定が、正面に押し出されてくるという。

また、森田(1977)は、(10)の例を挙げ、「他レテイル」の形式をとることにより婉曲的な断定として客観性・普遍性をおびるため、普遍性・一般性を要求される公的文章(新聞記事・論説文)や、日常的な事実、普遍的な事実の描写には、「他レテイル」を用いるのが一般的となっている、と述べている。

(10) 序文にそう述べられている。(森田1977:90)

工藤(1991)は、「他レテイル」が行為者の意図性に触れないという性質を持つことか

ら、評価に中立的になるため、客観的描写に使用されやすいと述べている。

以上の指摘から、日本語教育の現場でも、新聞、論説文等の読解指導、及び作文論文等の作成指導の際に、「客観的描写の表現」として「他レテイル」を扱うのは有効ではないだろうか。

2. 「他動詞の受身+テイル」に対応する中国語の表現

本章では、結果の継続という意味から「他レテイル」との対応が考えられる中国語の存在文と、受身という形式から対応が考えられる中国語の受身文について概観する。

2-1. 中国語の存在文

「存在文」(存在句)¹⁰ について、刘ほか(1983)は以下のように述べている。

中国語では、ある場所にある人・事物が存在していることを述べようとする時(例えばある場所の状況とか部屋の調度とかを描写する場合)には、一般に次のような文型を用いる。

場所語句+動詞+名詞(存在する事物)

(11) 桌子上 放着 一本书。(机の上に本が一冊置いてある。)(刘ほか1983: 456)

つまり中国語の習慣では、この種の意味を表す際、場所語句を文頭に置き、存在する事物を表す名詞は述語動詞の後に置くのである。存在文の伝達機能は主に外界の環境とか人の身なりや有様などを描写することである。(中略)ほとんどの場合、動詞の後にはアスペクト助詞の“着”がつく。述語動詞が“着”を伴うと、人・事物がどのような姿態や有様で存在しているのか、どのような方式で存在するに至ったのかを表す。

「存在文」は、説明的、描写的性格をもつという点で、「他レテイル」と共通している。また、「存在文」に用いられる動詞について、刘ほか(1983)は以下のように述べている。

存在文に用いられる動詞には二種類ある。一つは“蹲”(曲む)“坐”(座る)(中略)等、人体或いは物体の動作や変化を表すもの。もう一つは“放”(置く)“挂”(かける)(中略)等、人が物体を設置したり物体に何らかの処置を加えたりする動作を表すものである。

「人が物体を設置したり物体に何らかの処置を加えたりする動作を表す」動詞は、工藤(1995)のいう「主体動作・客体変化動詞」の中の「とりつけ動詞」¹¹に一致する。工藤(1995)は、「主体動作・客体変化動詞」の「他レテイル」が変化の結果の継続を表すとしているので、中国語の「存在文」との対応が考えられる。

2-2. 中国語の受身文

刘ほか(1983)は、中国語の受身文は、受身を表すマーカーがない「意味上の受動文」(意义上的被动句)¹²と、マーカーのあるものの2種類に大別できると指摘している。

2-2-1. マーカーなしの受身文——「意味上の受動文」

刘ほか(1983)は、(12)の例を挙げ、「意味上の受動文」について以下のように述べている。

動作の受け手が動作の影響を受けたことを表すのに、中国語では多く意味上の受動文を用い、受け手を主語の位置に置き、述語をその後に置く。動作の仕手が文中に現れる場合は受け手の後に置かれる。

(12) 房間打扫干净了。(部屋はきれいに掃除した。)(刘ほか 1983: 479)

(中略) 述語は他動詞で、普通は単一のハダカの動詞ではなく、状語、補語¹³⁾、アスペクト助詞“了”を伴うことが多い。

杉村(1991)も、「意味上の受動文」の述部には、受け手の状態あるいは状況的变化を示す成分が含まれていなければならないと指摘している。(12)には文末に完成のアスペクト助詞「了」が添えられている。

2-2-2. マーカーがある受身文——「被構文」

刘ほか(1983)は、述語動詞の前に受身のマーカーである介詞¹⁴⁾「被」が用いられる文を「被構文」(被字句)と呼び¹⁵⁾、「被構文」は主語からみて不愉快或いは被害的な事柄を表すのに用いられるのがほとんどである、と指摘している¹⁶⁾。

また、「被構文」の述語については、刘ほか(1983)は動詞の後ろに結果を表す成分が必要であると指摘している。

(13) 王宝被地主打了一顿。(王宝は地主にひとしきり叩かれた。)(刘ほか 1983: 480)

(13)は動詞「打」(叩く)の後に完成を表すアスペクト助詞「了」が添えられている。

以上が中国語の受身文に関する刘ほか(1983)の指摘の概要である。受け手が動作・作用を受けた結果どうなったかを必ず示さなければ成立しないという点が興味深い。受け手を主語にすることによって受け手を主題化し、変化の結果を前面化する結果の継続を表す「他レテイル」(工藤 1990)との共通点がここにあると考えられるためである。

3. 日本語の小説における「他動詞の受身+テイル」の例文に対応する中国語の表現

本章では、「他レテイル」の3つの用法に対応する中国語の表現について、日本語の小説の中から例文を収集し、中国語の対訳と対照し、中国語の存在文及び受身文との対応性の有無という観点から考察する¹⁷⁾。例文の後の[]は出典となった小説名の略称である。小説名は【例文資料】に記し、その後に[]で略称を示した。翻訳上の揺れを防ぐために、2種類の中国語の訳文のある小説を中心に調査した。

3-1. 「眼前の状態の客観的描写」の「他動詞の受身+テイル」

(14) この人のうちの納屋の土間には、ねじぼし大根や切干大根がどっさり吊るされている。[黒]

(14)' 在这些人的家里，储藏室的土间都挂着好些干萝卜和干萝卜片。[黒]

(15) 下の余白には、共同便所の中にあるような猥褻なく書きがされていた。[蟹]

(15)' 底下的空白处，跟公共毛厕一般乱写着猥褻的字句。[蟹①]

(15)" 标语下边的空白地方，跟公共厕所的墙壁一样，涂满了猥褻的字句。[蟹②]

(16) 聖域に入る入口の両わきには、精密なレリーフが施されていた。[世上]

(16)' 圣域入口的两旁，还有精致的浮雕。[世①]

(14)'~(16)'は「ある場所に何かが存在する」ということを表しており、いずれも「存在文」として訳されている。(14)'(15)'は動詞の後に継続を表す「着」、(15)"には「たくさん」という意味を表す「満了」が用いられている。(16)'は動詞後に「有」が使われており、レリーフが「存在している」という点が強調されている。

(17) 部屋の中はすっかり綺麗に整頓されていた。[世下]

(17)' 房間收拾得整整齐齐。[世①]

(18) 狐は巻物を口にくわえ、鋭く立てた耳の中も朱に塗られている。[金]

(18)' 石狐嘴里叼着紫菜卷饭团，竖起尖锐的耳朵，耳朵里也涂上了朱红色。[岡]

(17)'(18)'は「意味上の受動文」である。「主語の位置にあるものが、ある変化をとげてその結果が継続している」ことを示している。(17)'は、「房間」(部屋)が「收拾」(整頓する)の結果、「整整齐齐」(清潔)になったこと、また、(18)'は、「耳朵里」(耳の中)が「塗」(塗る)の結果、「朱红色」(朱色)になったことを表している。

このように、「眼前の状態の客観的描写」の「他レテイル」は、「ある場所に何かが存在する」ことを表す場合は「存在文」に、「動作・作用の受け手である主語の変化の結果の継続」を表す場合は「意味上の受動文」に対応する。

3-2. 「人の非意図的結果及び外的作用の結果」の「他動詞の受身+テイル」

(19) よごれた霧のようなもので、視界がふさがれていた。[砂]

(19)' 视线被一层肮脏的雾似的东西挡住了。[砂②]

(20) 川崎船は半分水船になったまま、カムサッカの岸に打ち上げられていた。[蟹]

(20)' 川崎船灌进了半船水，被冲到堪察加岸上。[蟹②]

(19)'(20)'は「被構文」である。話し手自身の意志にかかわらず、受け入れざるを得ない内容を表しているのも、不如意な状況を表す「被構文」と対応するのだと考えられる。

(21) 夜毎のモッコ搬びで、穴と穴とのあいだに、まっすぐ一本溝が刻まれていた。

[砂]

(21)' 由于每天夜晚搬运畚箕，砂坑与砂坑之间磨有一道笔直的沟。[砂①]

(21)" 每天晚上搬大网篮，洞穴之间，刻着一条条笔直的沟。[砂②]

(22) 海から打ちあげられたものはどんなものでも不思議に浄化されているんだ。

[世下]

(22)' 奇怪的是，大凡被海水打上来的东西全都干干净净。[世①]

(21)'(21)"は「存在文」である。穴と穴の間に溝が存在しているという眼前の状況を描写するために、「存在文」の形式をとっていると考えられる。(22)'では、「浄化される」という過程は無視して、「干干净净」(清潔である)という形容詞によって、きれいになっているという結果のみを表現している。(21)'~(22)'は、いずれも眼前の状況に対して話し手が主観を交えずに客観的な描写をしている。(19)'(20)'と異なり、話し手にとって不如意な結果ではないため、中国語の「被構文」とは対応しないのであろう。

このように、「人の非意図的結果や外的作用による結果」の「他レテイル」については、話し手にとって不如意な結果が生じる場合は「被構文」と対応するといえる。

3-3. 「視点者にとって否定的な意味」の「他動詞の受身+テイル」

(23) 荷車の荷縄が解けて荷物が抜きとられていた。[黒]

(23)' 板车上捆东西的绳子已被解开, 东西已被偷走。[黒]

(24) 日本で八匹目というような珍種まで、ほとんどあさりつくされてしまっていた。[砂]

(24)' 就连在日本仅仅发现了八只的稀有品种都几乎被捕尽了。[砂①]

(23)' (24)' は「被構文」である。(23)' は話し手が損害を被ったという否定的な意味であり、(24)' は珍種があさりつくされているという、話し手も含めた人類にとっての損失という否定的な意味を意味している。したがって、中国語でも、不如意な意味を表す「被構文」に対応するのである。

(25) ずたずたに裂かれたソファー・ベッドの上にはロッカーの中に入っていた博士と彼女の着替え用の洋服がばらまかれていた。[世上]

(25)' 被割得七零八落的沙发床上散乱着博士和女郎原本装在柜里的备用西服。[世①]

(25)" 撕得破破烂烂的沙发上散乱了满床衣橱裡翻出来的博士和她换穿用的洋装。[世②]

(25)' (25)" は「存在文」である。「洋服がばらまかれて、そのままそこに存在している」という内容を表しているため、「存在文」に訳されていると考えられる。

(25)' (25)" のような例はあるが、「視点者にとって否定的な意味」を表す「他レテイル」は、基本的に不本意な感情的色彩をもつ、「被構文」に対応すると考えられる。

以上、「他レテイル」の3つの用法と中国語との対応関係は【表2】のようになる。

【表2】「他レテイル」に対応する中国語の表現

「他レテイル」の用法	中国語表現	存在文	意味上の受動文	被構文
①眼望の状況の客観的描写		△ (場所に物が存在する場合)	△ (主品の変化の結果の継続)	
②人の非意図的・外的作用の結果				△ (否定的な意味の場合)
③否定的な意味				○

○…対応 △…()内の条件のもとで対応

3-4. 中国語母語話者の学習上の問題点

以上の対応を踏まえて、日本語を学ぶ中国語母語話者の問題点について検討する。

まず、中国語母語話者が中国語の「存在文」を日本語に訳す際に、「他レテイル」よりも「他テアル」を使用する可能性が高いことが考えられる。日本語の教科書の中国語版に、学習項目に取り上げられている「他テアル」の訳として、「存在文」が示されているため¹⁸⁾、「他レテイル」よりも「他テアル」が定着しやすいと考えられるからである。

次に、中国語母語話者が中国語の受身文を日本語に訳す際には、「サレル」という形は出やすいが、結果の継続を表す「サレテイル」には訳されにくいことが予想される。継続を表す「着」を伴うことの多い「存在文」とは異なり、中国語の受身文には結果の継続を表す明確なマーカーがないことによるものである。また、完成を表す「了」を伴うことが多いため、「サレテイル」とすべきところを、「サレタ」と誤訳する可能性がある。

4. 「他動詞の受身+テイル」の中国語母語話者による使用状況に関する調査

4-1. 調査の内容と対象者

3-1～3-3の「他レテイル」の中国語との対照結果と、3-4の中国語母語話者の学習上の問題点を踏まえて、中国語母語話者の「他レテイル」の使用状況に関するアンケート調査を実施した。中国語母語話者が、中国語の文を訳す際に、結果の継続を表す「他レテイル」をどの程度使用するかを調べるのが主な目的である。

調査対象は、日本語能力試験1級合格者で、来日して半年以上の、日本語学習歴3年～10年の大学院生50名である。被調査者は、いずれも新聞や論説文等で、「他レテイル」に接している可能性が高いと思われる。

調査内容は、中国語の文中の「他レテイル」に該当する部分を日本語に訳させるというものである。調査は基本的に対面式で行ったが、一部はEメールを使用しての調査も実施した。個別の対面調査の際には、調査後にフォローアップインタビューを行った。設問には、受身のマーカーがある「被構文」は、受身の形で訳出される可能性が高いために扱わず、受身の形が出にくいと思われる「存在文」と「意味上の受動文」を用いた。全部で8問調査したが、本稿では、「眼前の状態の客観的描写」の中の「ある場所に物が存在する場合」の「存在文」で、異なるアスペクト助詞が使われている設問を2問、「視点者にとって否定的な意味」の「存在文」を1問、「意味上の受動文」を1問の、計4問の結果を取り上げて分析する。

4-2. 調査の結果と分析

以下に調査の設問¹⁹⁾とその分析結果を記す。

課題として、中国語の下線部分を日本語に訳すように指示した。調査結果を【表3】～【表6】にまとめた。解答は、「レテイル」に該当する部分にどのような補助動詞が使用されているかによって分類した。解答の中には、中国語の漢字を使う等の誤りがあったが、ここでは、それらも含めて、表中の解答は全てひらがなで表記した。

4-2-1. 「ある場所に物が存在する場合」の「存在文」

【設問1】我去采访了学生自杀的那所小学校。自杀的学生的桌子上摆着鲜花。

※摆…置く、並べる、飾る²⁰⁾

私は生徒が自殺した小学校に取材に行った。自殺した生徒の机の上には花が_____。

【設問7】昨天我从地下道穿过，地下道的墙上贴满了各种各样的海报。 ※貼…張る

私は昨日地下道を通った。地下道の壁には様々なポスターが_____。

いずれも「存在文」で、「具体的な物の存在」を描写している。「ふと目に入った」という、「他レテイル」が使用されやすい状況設定になっている。【設問1】では「飾られていた」あるいは「飾ってあった」、【設問7】では「張られていた」あるいは「張ってあった」という解答が想定されるものである²¹⁾。

【表3】【表4】に示す通り、【設問1】【設問7】では類似の結果が得られた。最も多かったのが「他テイル」を使用しての解答であり、【設問1】では29名、【設問7】では28名

であった。「ある場所に物が存在する場合」の「存在文」に対応するのが「他テアル」だと認識する者が多いことがわかる。【設問1】は動詞の後に継続を表す「着」、【設問7】は「たくさんある」という意味を表す「満了」を用いているが、結果に大差はなかった。劉ほか（1983）が「存在文」における動詞の後の「了」は「着」に置き換え可能と指摘した通り、中国語母語話者は両者を同じ内容としてとらえていることがわかる。

「他レテイル」を使用した者は、【設問1】【設問7】ともに9名で、「他テアル」の約3分の1にすぎなかった。「他レテイル」を使用した者に、どこでそれを学んだのかを尋ねたところ、「日本に来てから自然に覚えた」（吉林省20代女性）、「日本の新聞や本でよく見かけて使うようになった」（北京市30代男性）という回答があり、来日後に自然習得した可能性が考えられる。また、「他レテイル」の使用者は、日本滞在期間が2年6カ月以上の者、または、日本語を専門とする者が多かった。

「他レテイル」とほぼ同様の意味を表す、「他動詞の受身+テアル」（以下、「他レテアル」）を使用する者も、【設問1】で3名、【設問7】で2名いた。解答数が少ないため、本調査の結果のみからどこでこの表現を学んだのか限定するのは難しいが、「何かで見た」（陝西省20代女性）という言葉から、日本語の文献等で見かけて使用するようになったのではないかと考えられる。

誤答の中では、「他動詞+テイル」（以下、「他テイル」）を用いた者が、【設問1】では7名、【設問7】では10名いた。これは、結果の継続を表す補助動詞が「テイル」であることはわかっているが、他動詞と組み合わせる場合は「他テアル」か「他レテイル」となることが理解できていなかったためではないかと思われる。「飾る」「張る」を自動詞として考え、「自テイル」の形にしようとしたとも考えられる。

【表3】 【設問1】の解答

被調査者総数 50 名

正誤	摘要	使用表現	解 答	人数	%
正答	計42名	他テアル	かざってある／おいてある／ならべてある	29	58
		他レテイル	かざられている／おかれている	9	18
		他レテアル	おかれてある	3	6
		自テイル	ならんでいる	1	2
誤答	計8名	他テイル	かざっている／おいている／ならべている	7	14
		他レル	ならべられる	1	2

【表4】 【設問7】の解答

被調査者総数 50 名

正誤	摘要	使用表現	解 答	人数	%
正答	計 39 名	他テアル	はってある	28	56
		他レテイル	はられている	9	18
		他レテアル	はられてある	2	4
誤答	計 11 名	他テイル	はっている／はりつけている	10	20
		他ル	はる	1	2

4-2-2. 「視点者にとって否定的な意味」の「存在文」

【設問6】 哎、路上扔着很多空罐儿。

※扔…捨てる、投げる

おや、道に空き缶がたくさん_____。

これも「存在文」ではあるが、ふと気づいたという状況を表しており、視点者にとって否定的な意味を示すということで、「捨てられている」という解答が想定されるものである。

最も多かった解答は「他レテイル」を用いたもので、32名いた。【設問1】【設問7】と同様「存在文」ではあるが、【設問6】で「他テアル」を用いたものは3名に過ぎなかった。これは、「扔」（捨てる）という語彙の意味に影響されていると考えられる。『「捨ててある」と言うのとわざとそうしているようでおかしい』（瀋陽市20代男性）という回答があり、「存在文」という文型から単純に「他テアル」という訳を導き出したわけではなく、動詞の意味から判断していることがわかる。また、「いつも『捨てられている』」というのを見かける。（吉林省30代女性）というように、意図的に「他レテイル」と「他テアル」を使い分けるといっても、「捨てられている」という表現を自然習得したケースもあるのではないかと考えられる。

【表5】 【設問6】の解答

被調査者総数 50 名

正誤	摘要	使用表現	解 答	人数	%
正答	計 45 名	他テアル	すててある	3	6
		他レテイル	すてられている／ほうられている／ちらされている	32	64
		他レテアル	すてられてある	5	10
誤答	計 5 名	自テイル	ちらばっている／ちらかっている	5	10
		他テイル	なげている／おいている	2	4
		他レル	すてられる	3	6

4-2-3. 「意味上の受動文」

【設問2】 明天我要搬家。今天我去看房间的时候，那个房间已经打扫干净了。

※打扫…掃除する、片付ける 干净…きれいな、清潔な
私は明日引越しをする。今日部屋を見に行った時、その部屋はもう
_____。

これは「意味上の受動文」である。想定される解答は、「きれいに掃除されていた」「きれいに掃除してあった」などである。掃除をした人間が誰か限定できず、また、部屋の様子をふと見た時の状況をとらえたものなので、「他レテイル」を使用するのがより適切な場面として考える。

【表6】に示す通り、「他レテイル」を使用した解答者が15名と、最も多かった。また、他動詞の受身形の過去形、「他レタ」を使用している者も8名おり、「他レテイル」使用者も含め、計23名が受身文として訳していることがわかる。

しかし、【設問2】においては「テイル」の欠落が多く、「テイル」ではなく「掃除した」「きれいになった」などと、「タ」を用いた者が18名²³⁾もいた。「丁」を過去を表す「タ」だと思っている者が多いことがわかる。

【表6】 【設問2】の解答

被調査者総数 50 名

正誤	摘要	使用表現	解 答	人数	%
正 答	計 28 名	他テアル	きれいにそうじしてある	11	22
		他レテイル	きれいにそうじされている	15	30
		自テイル	きれいになっている	2	4
誤 答	計 22 名	他テイル	きれいにかたづけている	2	4
		他テオク	そうじしておく	2	4
		他レタ	きれいにそうじされた／かたづけられた／そうじされてきれいになった	8	16
		他タ	きれいにそうじした／かたづけをした／きれいにした	7	14
		自タ	そうじしてきれいになった／きれいになった	3	10

4-3. 結論と今後の課題

以上の分析結果をまとめると以下ようになる。

1. 上級レベルの学習者でも「他レテイル」を使用する者は少なく、今回実施した8問の調査全てにおいて「他レテイル」を全く使用しない者が5名いた。長期の学習期間を経ないと「他レテイル」を使用するのは難しいといえよう。
2. 「存在文」は、「他テアル」に訳されることが多い。ただし、「視点者にとって否定的な意味」を表す場合には、「他レテイル」が使用されることが多い。
3. 上級レベルの学習者でも、結果の継続を表す他動詞と補助動詞の正しい結びつき（「他テアル」または「他レテイル」）が判断できない者が少なくない。自動詞と他動詞を混同している可能性もある。
4. 「意味上の受動文」は、日本語に訳す際にも受身の形で表現しようとする者が多い。

ただし、完成のアスペクト助詞「了」がある場合は、結果の継続を表す「テイル」が欠落し、「タ」と訳す傾向がある。

3-4 の中国語母語話者の学習上の問題点で指摘した結果が2と4に表れている。また、全体として、上級レベルの学習者においても「他レテイル」の使用率は高くないということがわかった。従って、「他レテイル」を文法項目として取り上げる必要があると考える。

本稿では、中国語母語話者の大学院生を対象として結果の継続を表す「他レテイル」の使用状況を調査したが、今後も上級日本語学習者を対象に同様の調査を実施して、「他レテイル」の使用状況を把握していきたい。また、日本語の中級教科書における「他レテイル」の取り上げられ方を調査・分析し、「他レテイル」の具体的な指導方法について考えてみたいと思う。

【注】

- 1) 「テイル」のこの用法は「動作・作用の結果の状態」などとも呼ばれるが(古川 1973)、本稿では「テイル」を継続相、「スル」を完成相とする奥田(1977)、工藤(1995)らに従い、「結果の継続」という用語を用いる。
- 2) 許(1997)は、台湾人を対象に「テイル」の習得に関する研究を行い、「テイル」の8種の用法の中で、「結果の状態」(本稿でいう「結果の継続」に相当)は3番目に習得が困難であると述べている。
- 3) 「他レテイル」とはほぼ同じ意味を表す「父の写真が飾られてある。」のような「他動詞の受身+テアル」という表現があるが、これは、小説等には出現するが、今日ではあまり使用されていない古い表現であるという指摘が多いことから(野村 1969、森田 2002)、本研究では扱わない。
- 4) 本稿に取り上げた例文中の下線は筆者が記したものである。
- 5) 例文中に示した※は非文を示す。
- 6) 工藤(1991)は「タイに流れ出た難民はカンボジアとの国境に近い森林の中に集められていた。」という例文を挙げ、「他レテイル」の文は人が主語になるが、「他テアル」の文は人が主語にならないという。だがこの場合、難民は政府の指示で森林に集まっているのであり、自己の意志とは無関係にその状況に置かれている。よって通常は、人を主語とする場合は、「自テイル」のみが使用されるといえる。
- 7) 寺村(1984:150)は、「自テイル」「他テアル」「他レテイル」の使用の際、描こうとする事態が、尋常な状態か異常な状態かについて考慮する必要があると述べ、「瞬間動詞の～テイルが、あたりまえでない事態の発見の報告に使われることが多いのに対し、～テアルは——何の意図が分からないが人がある意図でしたことの結果だと見られるという意味で、——尋常な状態について使われるのがふつうだという点である。」という。「あたりまえでない事態」は、話し手(視点者)にとって否定的な意味であることが多いため、本稿では、金水ほか(2000)説に従って、「視点者にとって否定的な意味」という表現を用いる。
- 8) この用語は工藤(1991)による。
- 9) この外に森田(2002)は「睫毛の長い眼はやたらに大きく、長く引いた弓形の眉で囲まれていた。」という例を挙げ、「他レテイル」には自然状態を表す用法があると述べている。ただし、この用法は元からそのような状態にあったことを描写しているものであり、何かの動作によってある結果が生じ、その結果が継続していることを表す「結果の継続」の「他レテイル」とは性質が異なるため、本稿ではこの自然状態を表す「他レテイル」は研究の対象外とする。
- 10) 本稿における中国語の文法用語は劉ほか(1983)によるものとし、その邦訳は相原監訳(1991)に基づくものとする。本稿では中国語の存在文「存在句」は「存在文」と呼ぶ。
- 11) 工藤(1995)は、主体の動作が客体に変化をもたらす動詞を「主体動作・客体変化動詞」と呼び、そのうちの「客体の状態変化・位置変化をひきおこす動詞」を「とりつけ動詞」等に5分類している。詳細は工藤(1995) P. 74、P. 75 参照。

- 12) 本稿では中国語でマーカーのない受身文「意味上の被动句」を「意味上の受動文」と呼ぶ。なお、「意味上の受動文」を受身文とは見なさない説もあるが（大河内 1982）、本稿では、刘ほか（1983）に従い、中国語の受身文は「意味上の受動文」と「被構文」（注 15 参照）の 2 種類であるとする。
- 13) 「状語」とは日本語の連用修飾語に相当するものであり、「補語」とは動詞または形容詞の後に置かれ、主に動詞または形容詞に対して補足説明を行う成分である。
- 14) 「介詞」とは英語の前置詞に相当する。
- 15) 本稿では中国語でマーカーのある受身文「被字句」を「被構文」と呼ぶ。
- 16) 大河内（1982）は、「被」は被害、災害の「被」であり「被る」ことに由来するため、好ましくないこと、話し手が不如意と感ずることに使われると述べている。現在はこのような制限はなくなりつつあるという指摘はあるものの（相原 1996）、なお「被害」の意味は根強く生きている、というのが先行研究における共通認識である（楊 1989、杉村 1991）。
- 17) 日本語の小説は、中国語訳が 2 種類あるものと、先行研究で調査対象となっているものの、合計 9 作を調査対象とした。なお、【例文資料】には本稿で例文を取り上げた資料のみを記載した。
- 18) 『みんなの日本語 初級Ⅱ翻訳・文法解説中国語版』P. 30、《新編日語》P. 11 参照。
- 19) 設問は、日本語の小説から収集した例文の中国語訳に基づいて、筆者が作成したものである。
- 20) ※で記した中国語単語の日本語訳は、実際の設問中には記されていない。
- 21) 【設問 1】【設問 7】では、「飾られていた」「張られていた」などと、過去形を用いるのが正しいが、実際の解答には、「飾られている」「張られている」などのように、過去形を用いていないものが多かった。ただし、本調査ではどのような補助動詞が用いられるかを分析の主眼としているため、過去形の使用の有無は分析対象とせず、「飾られている」「張られている」も正答扱いにしている。また、「飾られています」のように、丁寧体を用いた解答もあったが、文体の統一については分析対象とせず、丁寧体を用いた解答も、常体の解答として一括して扱う。
- 22) 【表 6】の「他レタ」と「他タ」と「白タ」の合計人数である。

【例文資料】

- 阿部公房（1962）『砂の女』新潮社【砂】
 秦晶・刘新方訳（1988）《砂女》兰明主编《金閣寺》工人出版社【砂①】／楊炳辰・王建新訳（2003）《砂女》浙江文艺出版社【砂②】
 井伏鱒二（1966）『黒い雨』新潮社【黒】
 柯毅文・顔景儒訳（1982）《黒雨》湖南人民出版社【黒】
 小林多喜二（1929）『蟹工船』【蟹】
 近夷訳（1955）《蟹工船》作家出版社【蟹①】／叶渭渠訳（1973）《蟹工船》人民文学出版社【蟹②】
 三島由紀夫（1956）『金閣寺』新潮社【金】
 唐月梅訳「金閣寺」《金閣寺・潮騒》译林出版社【閣】
 村上春樹（1985）『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』上【世上】／下【世下】新潮社
 林少华訳（2002）《世界尽头与冷酷仙境》上海译文出版社【世①】／ 賴明珠訳（2002）《世界末日與冷酷異境》時報文化出版企業股份有限公司【世②】＊台湾の出版物であるため、繁体字が使用されている。

【参考文献】

- 相原茂ほか（1996）『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』同学院社
 大河内康憲（1982）「中国語の受身」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』明治書院
 大河内康憲（1983）「日・中語の被受表現」『日本語学』2-4 明治書院
 奥田靖雄（1977）「アスペクトの研究をめぐって—金田一的阶段」『ことばの研究・序説』むぎ書房
 木村英樹（1982）「テンス・アスペクト—中国語—」『講座日本語学』明治書院

- 許夏琨 (1997) 「中・上級台湾人日本語学習者による「テイル」の習得に関する横断研究」『日本語教育』95号 日本語教育学会
- 金水敏・工藤真由美・沼田善子 (2000) 『日本語の文法2 時・否定と取り立て』岩波書店
- 工藤真由美 (1990) 「現代日本語の受動文」『ことばの科学』4 むぎ書房
- 工藤真由美 (1991) 「アスペクトとヴォイス」横浜国立大学『現代日本語のテンス・アスペクト・ヴォイスについての総合的研究』1988-1990年度科学研究費報告書
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 周平・陈小芬 (1994) 《新编日语2》上海外语教育出版社
- 杉村博文 (1991) 「遭遇と達成—中国語被受文の感情的色彩—」大河内康恵編 (1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 鈴木義昭 (1986) 「現代漢語における「無主句」と「存現結構」について」『ILT NEWS』79 早稲田大学語学教育研究所
- 田中章夫 (1963) 「説明の文章」時枝誠記・遠藤嘉基監修 (1963) 『講座現代語5 文章と文体』明治書院
- 田中よねほか (1999) 『みんなの日本語 初級II 翻訳・文法解説 中国語版』スリーエーネットワーク
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味』第II巻 くろしお出版
- 名柄連監修／加藤泰彦・福地務 (1989) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ15 テンス・アスペクト・ムード』荒竹出版
- 野村雅昭 (1969) 「近代語における已然態の表現について」『佐伯梅友博士古稀記念國語學論集』表現社
- 藤堂明保 (1968) 「存現文の本質とその解釈」『中国語学』5月号 中国語学研究会
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語1』角川書店
- 森田良行 (1992) 「「受身+テイル・テアル」の用法」『文学研究科紀要』38 早稲田大学
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 楊凱榮 (1989) 「文法の対照的研究—中国語と日本語—」『講座日本語と日本語教育5』明治書院
- 葉菩 (2003) 「口中受動文の対照研究—『新編日語』における文法説明への提案」『早稲田大学日本語教育研究』2
- 吉川武時 (1973) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 刘月华ほか (1983) 《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
- 刘月华ほか著／相原茂監訳 (1991) 『現代中国語文法総覧(下)』くろしお出版
- 呂叔湘主編／牛島徳次監訳 (1992) 『中国語用例辞典』東方出版